

世界湖沼会議サテライト会場で千波湖の自然を楽しく学びました

～第2回～第4回千波湖環境学習会～

第2回～第4回の千波湖学習会は、世界湖沼会議千波湖サテライトイベントとして、水戸市環境フェアの中で実施しました。

第2回 ホタルを観察しました

6月2日に前夜祭として開催した「ホタルを観察しよう」には507名の参加者で大盛況となりました。

集合時間の午後7時から暗くなるまでの間に、講師からホタルの生態などについて説明があり、参加者は興味深く耳を傾けていました。説明のあとホタルクイズを行い、クイズに答えようとする元気いっぱいの子どもたちで大変盛り上がりしました。

7時30分を過ぎてホタルが光り出す時間帯になり、「ホタルに触らない、連れて帰らない、懐中電灯などでホタルを照らさない」など観察にあたっての注意事項を事務局から話し、2グループに分かれて観察を開始しました。今年は季節の進みが早く、事務局ではホタルが出てくれるか心配でした。あちらこちらで10匹前後の集団で飛び交う姿が見られ、真っ暗の中で参加者からは歓声が上がるとともに、こんな身近にホタルがいることに感心されている方もいました。

参加者の皆様に飲料をご提供していただいた水戸ヤクルト販売株式会社様、誘導などご協力いただいた一般社団法人水戸市公園協会様にお礼申し上げます。



ホタルの説明を聞く皆さん

第3回 ビオトープを作りました

6月3日午前に開催した、ビオトープ作りには、約170名が参加しました。この学習会は、水戸市のシンボルである千波湖の水質浄化と生物多様な環境を再生することを目的に実施しています。千波湖でのビオトープ作りでは、これまで植栽してきたエリアには植物が茂り、そこは、小魚やヌマエビ、テナガエビなどの水生生物の生息場所として貴重な環境になってきています。

当日は、朝9時に当協会ブース前に集合し、講師からのスケジュールと注意事項の説明後に、湖岸に移動し、さっそく植栽を始めました。快晴で真夏のような空の下で、子どもたちは長靴の中に水や



泥んこになりながらの植栽

泥が入るのにも構わず、ヨシやガマ、セキショウなどを植えていきました。

夢中になるあまり泥に足をとられて動けなくなったりしながらも、子どもたちは泥んこになりながら頑張って作業を続けていました。植栽後は、「ビオトープは生き物の住みかを作り水質浄化にも役立つ」などビオトープ管理士の川又正寿氏の説明を聞き解散となりました。

参加者の皆様に文具や飲料をご提供していただいた千波湖水質浄化協会様、有限会社沼田クリーンサービス様、逆川こどもエコクラブ様、また、ご協力していただいた皆様にお礼申し上げます。



うまく植栽できたよ

第4回 外来種フィッシングを体験しました

6月3日午後に開催した、外来種フィッシングには多数の参加希望があり、募集の100名があつという間に埋まってしまいました。

当協会ブース前で、注意事項などを事務局から説明し、釣り竿、ルアーを受け取り5班に分かれて湖岸へ出発しました。

いよいよフィッシングの開始です。参加者のみなさんは、周囲に気をつけながら、アメリカナマズやブラックバスなどの大物を釣ろうと張り切っていました。最初、ルアーで釣りをしていましたが、なかなか釣れないため餌釣りに替えました。いろいろ工夫して頑張りましたが残念ながら大物を釣りはできませんでした。

最後に、前日に仕掛けた罟を回収しました。中には外来種のミシシippアカミミガメや在来種のタモロコなどが掛かっており、子どもたちは興味深そうにのぞき込んでいました。

2日間で3回の学習会を行うスケジュールでしたが、参加した皆様の協力もあり、無事に終えることが出来ました。

参加者の皆様にルアーをご提供していただいた千波湖水質浄化協会様、また、ご協力ください皆様にお礼申し上げます。

千波湖環境学習会では、飲料や啓発品を常時受け付けていますので、皆様よろしくお願ひします。



大物を狙う子どもたち